

寝屋川市人口ビジョン

平成 28 年 2 月

目 次

1 人口動向	1
(1) 総人口の推移	1
(2) 年齢3区分別人口の推移	2
(3) 男女別5歳年齢別人口構成比の推移	3
(4) 総人口に占める0～4歳人口、15～49歳女性人口割合の推移	5
(5) 老年人口（65歳以上）と高齢化率の推移	6
(6) 老後の暮らしに関するアンケート調査	7
(7) 世帯数と世帯人員の推移	8
(8) 出生数、死亡数（自然増減）の推移	9
(9) 合計特殊出生率の推移	10
(10) 子どもの数に関する市民アンケート調査	11
(11) 未婚率の推移	12
(12) 転入数、転出数（社会増減）の推移	13
(13) 転入元・転出先別の社会増減	14
(14) 年代別、転入元・転出先別の社会増減	20
(15) 定住意識等に関する市民アンケート調査	21
(16) 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響	23
(17) 周辺地域との流動状況	24
(18) 従業者数の推移	30
(19) 就職・転職に関する市民アンケート調査	32
(20) 産業別従業者数	33
(21) 希望する仕事に関する市民アンケート調査	35
(22) 人口動向からみる寝屋川市の特徴	36
2 将来人口の推計と分析	37
(1) 推計パターンの概要	38

(2) 推計結果	39
(3) 人口減少段階の推計	40
(4) 人口推計のシミュレーション	41
3 人口の変化が与える影響	45
(1) 財政状況への影響	45
(2) 公共施設等への影響	46
(3) 商業への影響	47
(4) 子育て・教育への影響	48
(5) 地域コミュニティへの影響	48
4 寝屋川市の将来人口ビジョン	50
(1) 目指すべき将来の方向性	50
(2) 市民アンケート調査の実施	50
(3) 人口分析等を踏まえた基本的方向	56
(4) 人口の将来展望	56

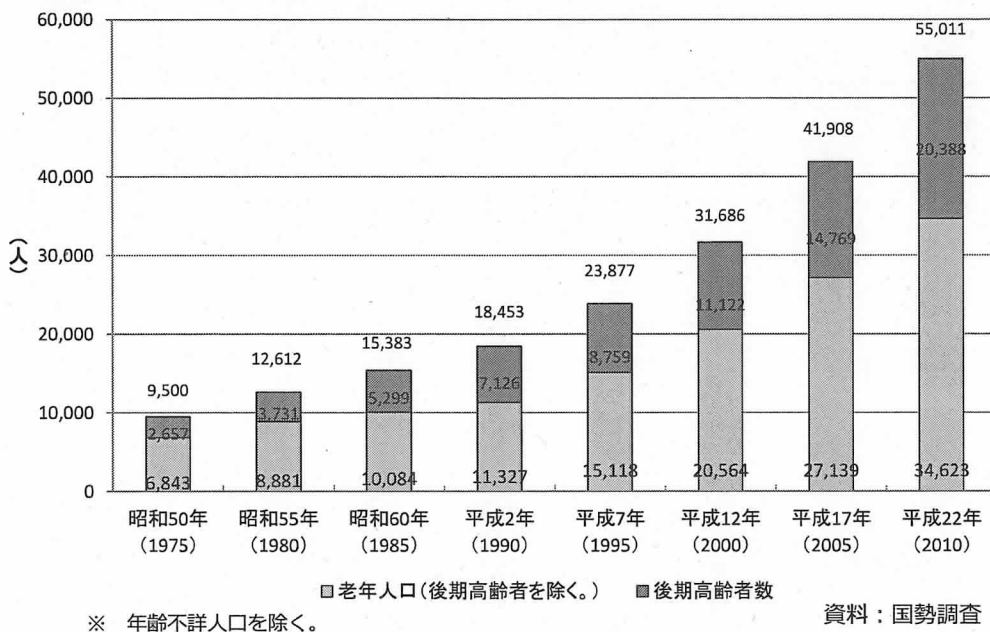
(5) 老年人口（65歳以上）と高齢化率の推移

昭和50年以降、老年人口は年々増加し、平成22年現在で約5万5千人、35年間で約6倍に増加しており、とりわけ、75歳以上の後期高齢者の数は平成22年現在で約2万人、35年間で約7倍に増加していることが分かります。

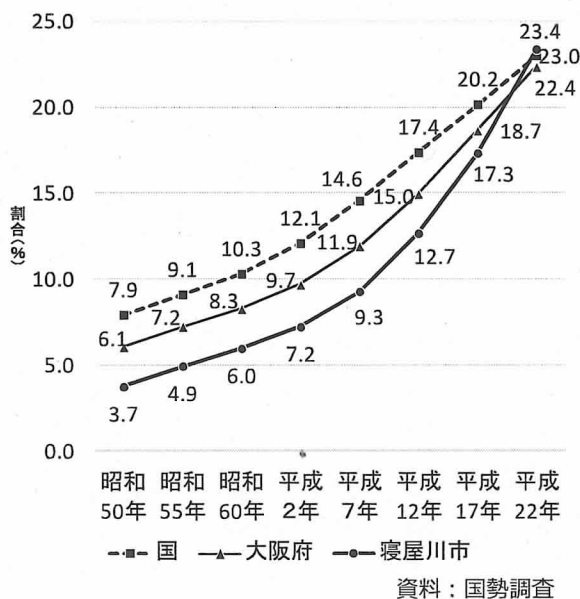
高齢化率は、平成17年まで国、大阪府を下回っていましたが、平成22年には23.4パーセントとなり、国、大阪府を上回りました。

また、後期高齢化率は、国、大阪府に比べ低いものの、上昇率が高くなってきており、平成22年に8.7パーセントとなっています。

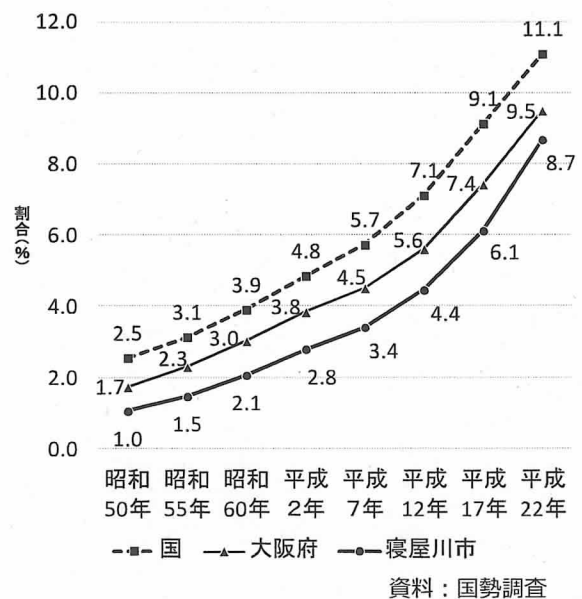
【図9】老年人口、後期高齢者数の推移



【図10】高齢化率の推移



【図11】後期高齢化率の推移



(3) 人口分析等を踏まえた基本的方向

将来、確実に迫ってくる人口減少に対応するためには、本市の人口動態や特性を把握した上で、出生数を増加させるとともに、人口の流出を抑制することが重要です。

そのためには、人口の変化が与える市財政への影響、公共施設等への影響、商業への影響、子育て・教育への影響、地域コミュニティへの影響などを十分勘案し対応することはもちろん、地域経済の活性化やそれに伴う就労機会の増加、子育て支援を始めとした居住環境の更なる充実が求められており、特に、市民アンケート調査結果において、市民が定住する条件として「治安」「子育てへの支援」などを重視する声が多かったことなども踏まえ、より多くの市民の定住を促進する施策を実施する必要があります。

これらのことを行うに当たり、以下の４つを基本目標として定め、具体的に本市の「まち・ひと・しごと創生」を進めます。

1	魅力ある仕事、多様な雇用の機会を生み出すまちを築く
2	安全で活気があり、住み続けたいまちを築く
3	安心して子どもを産み、育てることができるまちを築く
4	地域の力をいかし、いつまでも笑顔で暮らせるまちを築く

(4) 人口の将来展望

前述の４つの基本目標を掲げ、出生数の増加及び転出数の抑制の推進とともに、長期的な定住環境の整備を進めます。

具体的な数値目標は、本市の独自推計（パターン２）による平成５２年の将来人口１８６,３７６人を基準として、合計特殊出生率の補正（シミュレーション１）による人口増８,００２人、純移動率の補正（シミュレーション２）による人口増４,９１３人を踏まえ、

平成５２年（２０４０年）の目標人口：２００,０００人
とします。